

第2版の序

栄養サポートチーム（NST）は、全国1,600以上の病院で稼働し、組織横断的なチーム医療として活動されています。また病院では、薬剤師や管理栄養士の病棟担当制も進み、担当医とともに、入院患者さんの栄養管理に関わることが日常業務となっています。特定行為研修を修了した看護師は、PICCを挿入し、輸液管理に関わるようになってきました。

そのようななか、2020年に発刊された本書『エキスパートが教える輸液・栄養剤選択の考え方』は、医師、薬剤師、管理栄養士をはじめ、多くの医療スタッフに活用していただきました。滋賀医科大学医学部附属病院では、2003年に全科型NSTが稼働し、私が責任者を務めた20年間で10,000例を超える患者さんの栄養管理に関わることができました。本書では、この経験を活かして、静脈栄養の製剤や経腸栄養剤をどのように選択し、活用しているかを一書にまとめました。特に、具体的な処方例を提示しているのが特徴です。なかでも、間接熱量測定を用いたエネルギー必要量の設定などは、他施設でも活用していただきたいと考えております。

2020年の初版発刊から5年が経過しました。その間に、使用できる輸液製剤、経腸栄養剤、流動食にも変化がみられます。栄養アセスメントにおいても、GLIM基準が広く活用されるようになりました。また、「日本人の食事摂取基準」も2025年版が発刊されました。このような背景から、新たな処方内容に見直し、最新のエビデンスから解説を加えました。我々の処方例を参考にしていただき、各施設でオリジナルの処方例を作成していただくのもいいと思います。

初版と同様に、白衣にも入れられるポケット版にしました。病院でも、在宅医療でも、持ち歩いて活用していただければ幸いです。

2025年12月

佐々木雅也